

2年生性教育講話

日時：平成30年11月15日（木）7限目

場所：小松高校 視聴覚室

演題：「若い世代のみなさんへ

～大切にしてほしいこと～」

講師：石川県女性相談支援センター

子ども・女性相談課 課長 常盤 秀樹 氏

専門員 田甫 真由美 氏

ドメスティック・バイオレンス（DV）
という言葉は耳にしたことがあると思
いますが、あまり身近なこととは思えない
人も多いのではないのでしょうか？



高校生でも関わることもあるデートDV

を切り口に、石川県の現状などリアルな情報も盛り込まれた「暴力」に関わる
お話でしたが、しっかりと現実を見つめる機会となり、改めて「暴力」からは
何も生まれないということを学びました。そして対等な人間関係を作るため
には「男らしさ」「女らしさ」にとらわれず、「人間らしさ」を大切にし、お互
いの個性や能力を認め合うことが大切であると知ることができました。

また、パープルサポートいしかわという相談機関があることもわかり、いざ
という時の対処方法を知ることでもでき、有意義な時間となりました。

生徒のひとこと感想をご紹介します。

- 相手の気持ちを考えるのが大切だと思った。
- DVやいじめは絶対許してはいけないと思った。
- 身近に起こる暴力のこわさがわかった。
- 他人事ではないと思った。気をつけたい。
- 日本は世界と比べてまだまだだとわかってびっくりした。
- DVなどの性暴力について詳しく知れてよかった。
- 男性が暴力被害に遭うとしたらどういうものなのか知りたい。
- 暴力をふるうような人は、本当に自分勝手だと思った。これからは、暴力は絶対にしないようにしようと思った。
- 暴力をふるう人には、二重人格のようなものがあると聞いてこわいと思った。
- 実例などをもっと聞きたかった。
- 常盤さんの気持ちが伝わってきた。暴力は絶対だめだと思った。
- DVは身近にあるものだとわかった。真剣に考えることができよかった。
- もし何かあったら支援センターを頼ろうと思った。困ったらすぐに相談することが大切だと思った。
- 被害を受けた人は悪くないことがわかった。
- 周りに被害に遭っている人がいたら助けたい。
- 日本はDVを避けるのが難しい国だとわかった。



- 被害者がしていない証拠を示さなくてもいいような社会になってほしい。
- 逃げるが勝ちとおっしゃっていたが、実際に逃げるのは難しいと思った。
- パープルサポートの存在を広めていきたい。
- いじめ、DVをやるのはよくないと思った。対応件数を聞いて関係ないことだと思えなくなった。自分は今後やらないように、止められるようにしたい。
- 相手を傷つけることは絶対にしてはいけないと改めて思った。
- 誰が悪いというのは状況によって様々で、だからこそしっかり取り締まれないでいるのだと思う。なので、嫌なことをはっきり嫌だと言えるような社会にしていくことが必要だと思う。

- 理不尽で抗うことができない暴力で、その人の人生が狂わされるのが許せない。
- DV被害に遭わないように気をつけたい。



- 今回の講演を聞いて、改めて異性を大事にしようと思うことができた。
- 自分が思っていた以上にDVの範囲は広いことがわかった。
- 何かあったときに、一人で抱え込まずに相談することが大切だと思った。
- DVは本当に恐ろしいことだと思った。日本の社会を変えていくことも大切だと思った。
- 暴力が伝染していくということが記憶に残りました。
- 相手のことを考えて行動したい。